



福祉見てある記<sup>38</sup>

## ウェルパルクまもと

「ウェルパルクまもと」という名を聞かれて、既にご利用されている方、深く関わられている方もいらっしゃるかと思いますが、多くの皆さんは「それは何？」とお思いになられたかもしれません（取材時に乗ったタクシーの運転手さんにも、「メルパルクですか？」と聞き返されてしまいました）。

「ウェルパルクまもと」は、平成18年の春に、熊本市大江5丁目1番1号（九品寺のダイエー横、交通局の敷地跡）にオープンした、熊本市総合保健福祉センターの愛称です。行政のコンセプトを受けて、民間が建物の設計・建設を行い、維持管理、運営にも民間の資金や技術を活用するPFI（Private Finance Initiative）方式を市で初めて実施した施設でもあります。今回、私たちは、職員の木村聡美さん、NPO法人コミュニケーション・コンサルティング熊本の河添博幸さんに案内いただき、施設やコンセプトなどを取材してきました。

まず、交通の便ですが、近くにバス停・電停があり、自動車の駐車台数は63台（身障者用4台を含む）、駐輪台数は100台とのことです。ですので、とても便利かと思えます。

では、施設を上階から見ていくことにしましょう。

4階は「熊本市保健所」です。地域医療課、生活衛生課、食品保健課、感染症対策課からなり、関連施設の指導、相談業務、予防対策など様々な活動を行っています。

3階は「中央保健福祉センター」です。健

康相談、保健指導、健康診査を行い、住民協働による健康づくりに貢献しています。



2階は「子ども総合相談室・子ども発達支援センター」です。子ども発達支援センターは、しょうがいを持っている、あるいは持っているかもしれない子どもとその保護者のためのセンターです。地域ネットワーク型の支援システムを構築し、相談や初期療育活動を行っています。予約が多く、この時は「半年先まで一杯です」というお話でした。工夫を凝らした多くの部屋がありました。

1階は、エントランス、授産施設の方々の製品の販売所、ウェルパルク広場と会議室です。ウェルパルク広場では、様々なNPO団体などが企画し行政がそれを支援する形で、協働で健康づくり活動を展開しています（コンセプトは産業文化会館の「あいぽーと」と似ていますが、こちらは健康と福祉に特化した「活動と表現の場」ということです）。詳しい活動内容などは、市政便りや熊本市ホームページで確認することが出来ます。介護犬も入れますし、広いフロアで軽食もご自由に、とのことでした。子育て支援のキッズコーナーもあり、「いやな検診だけやって帰るというのではなく、ここで楽しんで行く」子ども達も多いようです。血圧計やメタボ測定器も気軽に利用できます。

バリアフリー・ユニバーサルデザインへの配慮も行き届いており、電停・バス停から安全に、雨に濡れずに入館できる屋根付き歩道や、福祉対応型のエレベーター、また、フロアごとに異なるデザインを施し、多目的ベッド・オストメイト・シャワーパンを備え、便



器の向きや高さもしょうがいに応じて対応可能な多目的トイレなどがありました。このトイレは、近くで買い物をしたり、映画を観たりする際にも、気軽に利用していただきたい、とのことでした。子どものためのかわいい便



器・洗面台もちゃんと備えられています。

環境にも配慮がなされ、屋上には芝生と観葉植物で緑化された庭園があります。ちょっとした都会のオアシスです。ソーラーパネルで発電も行い、発電量は1階の掲示板に表示されています。なお、屋上のウッドデッキを外すと、水遊びの空間も生まれるとか。



地域住民と協働した健康づくり、福祉環境の充実を目指そうというコンセプトが強く伝わってきて、現在の意欲的な活動と共に、今後の発展にも期待がもてました。建物自体が新しい上に、開放的で明るい作りになっており、近くまで来られた折には、ちょっと見学でも、といった気軽な気持ちで、是非立ち寄っていただきたい場所でした。

なお、開館時間は午前8時半～午後9時、休館日は12月29日～1月3日です（保健所等の行政窓口の方は行政営業時間に従います）。お問い合わせは、熊本市保健所（地域医療課：364-3186、生活衛生課：364-3187、食品保健課：364-3188、感染症対策課：364-3189）、中央保健福祉センター：364-3113、子ども総合相談室：366-2525、子ども発達支援センター：366-8240、ウェルパル広場：366-0168（いずれも、市外局番：096）です。

（本研究所研究員 長友 敬一）

（本研究所研究員 大野 哲夫）